

制度

行ニハ、八柏大和守、其他御返事、合川、深堀、○中都合二千餘人、八口内口ニ差向ラル、
〔徳川禁令考、御用達町人〕文政四巳年十二月

水戸殿屋形江立入候用達町人江苗字帶刀差免候儀に付懸合

水戸殿屋形江立入候用達町人共之内、夫々身分段取有之、扶持方等被給、屋形用向に而は、仕來之通、苗字爲相名乘、裏附上下役肩衣被差免候、内用向相達候町人共江は、重立候用向申附候節は、帶刀差免爲致、並非常驅附之節、帶刀差免、屋形用挑燈相渡被置候ものも有之候處、右之内には、段取之次第を不辨、差免有無に不拘、屋形江立入候得ば、一體之儀と相心得、新古其筋合等無差別、自分に而肩衣を著用致し、屋形江立入候向も有之哉に被聞受候、其外屋形江不立入町人共之内、屋形立入之様申成、同様に致し歩行候者も有之候由に付、此度屋形立入候町人共之分は、差免有無之次第、璇と取究、猶更心得違不致様、夫々被申渡度候、右者水戸殿屋形之儀には有之候得共、御支配下町人共之儀に付、屋形用達之分者、其町所名前、并身分段取之譯等以來は御奉行所江相達候様可致候哉、又者相達候に不及方ニ可有之候哉、不取締無之様致度、此段御問合申候様、役人共申候、以上、

十一月

下ヶ札

書面之趣用向相達候、御料所者勿論、他領之もの共江、苗字爲名乘、帶刀爲致候儀は、堅ク可爲無用旨、享和元酉年之御書附有之候間、奉行所に而は、難承置筋ニ有之候、

〔徳川禁令考、四十九文武藝術〕寛政十午年十月

醫師苗字帶刀之儀甲斐庄武助江問合

領分在町に罷在候醫師之儀、百姓同様之儀には候得共、俗醫は格別、總髮剃髪等に而、醫師之形に